

議事録

名 称	高知カツオ県民会議 カツオ消費・漁業分科会（第6回）		
日 時	2018年2月16日 16:00~17:30	場 所	魚頭 大熊
		作 成	事務局：サニーマート 眞鍋
資 料	議題、出席者リスト、高知新聞、カツオ取り巻く環境、日本遺産、高野参議院議員質問答弁		
出席者（敬称略）以下17名			
（サニーマート）中村、（高知かつお漁業協同組合）中田・松田、（明神丸）明神、（新生丸）松下、（明神水産）明神、 （県漁業協同組合）澳本・米沢・中元、（日本漁船保険組合）今井、（土佐魚類）森國、（大熊）平、（高知工科大学）浜田、 （RKC調理製菓専門学校）小笠原、（高知広告センター）奥代、（情報発信分科会より）西野、（サニーマート）眞鍋			
議題および意見 全議題において要点のみ記載			
1. 開会にあたり			
<ul style="list-style-type: none">・ 2018年に入って一回目の分科会。すぐに結果が出ることはないだろうが、自分たちが勉強し、この会がこれからの動きのきっかけになるよう各位の協力をお願いしたい。・ 本分科会に初参加となる RKC 調理製菓専門学校の小笠原様、日本漁船保険組合の今井様よりご挨拶を頂いた。			
2. 直近のトピックス、活動についての報告			
<ul style="list-style-type: none">・ 食文化：カツオマイスター制度、うんちく本の準備を進める・ 情報発信：ホームページを公開し整備継続、ロゴマークを決定・ 調査保全：提言を一旦まとめる形とし、日本遺産の取得を検討・ 12/25 拡大幹事会：W C P F Cへの参加報告が主。世界との壁を感じ、県民会議を見つめ直す機会と捉える。・ 1/16 幹事会：方向性を協議するが、定まらずに、座長副座長会に託す・ 1/29 座長副座長会：各位の考えを織り交ぜながら、原点を確認する機会となった。宮崎の4漁協が近海カツオ一本釣りを主に日本農業遺産に登録する動きがあり、次年度の活動に日本遺産に登録したらどうかとの方向がでる。・ 2/15 幹事会：分科会を2つに束ねてはどうかという意見もあったが、テーマによって柔軟に対応し、一旦は現状どおり <p>・ 日本遺産について 近海だけでなく沿岸もということになれば19tのカツオ船も入るため、黒潮町や中土佐町に入っていたきたい。佐賀はエサを供給する体制もあり、土佐清水など一本釣りに関係する市町村に協力をお願いする動きになりそうだ。県は遺産という言葉にマイナスのイメージを心配していた。文化財というよりも観光的な切り口で進められており、見て回るようなストーリー性のある絵が描けるかが肝要。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 高知新聞記事紹介 マグロは養殖の道を探り、ウナギは不漁で高騰、この1年のカツオ漁はこの10年では豊漁だった。カツオの不漁が続き、漁業が危機的な状況になっているが、高知県民にははどう伝わっているのかが疑問であり、今後の分科会でもしっかり情報を伝えていくことの重要性を感じた。カツオの付加価値をつけるひとつの方法として一本釣り漁でMSC取得に向けた予備審査を受けようということを進めている。			
3. 消費・漁業分科会の本年度活動方針についての意見交換			
<ul style="list-style-type: none">・ 中村座長：1年足らずの活動の中で、高知県民の意識をどう変えていけるか、そのためには正しい情報をしっかり伝えていく形も必要であり、そのことをどう実現するかいうことに課題があることが分かってきた。カツオに関しての情報も様々な場所で、様々な人が、各々の情報で消費者や子供たちに伝えているのが実情だが、漁業や消費の実態をより正しく伝えていけるような情報発信ツールを整えたい。そのために各分科会や機関の力も借りていきたい。 また県の資料から分かるのとおり、漁船の数は最盛期の10分の1程度に減っており、漁業は危機的な状況にある。近			

海にカツオを呼び戻そうとする動きはあるものの、漁業が残っていかなければカツオを獲ることもできない。漁業が儲かる形でなければ存続は難しく先細りになる一方であり、この困難な状況打破がカツオ県民会議の緊急課題だと感じている。仮に魚が獲られなかったとしても、消費者は別の食べ物を選ぶようになり、本当に困るわけではない。そのとき困るのは漁業関係者であり、当分科会には、船主、市場、卸、小売、飲食と揃っており、漁業の可能性を当分科会として探っていきたい。

MSC、マリンエコラベル、食育を課題としているが、漁業の可能性を検討したいという提案についての意見

- ・ 漁業にとっては、魚がとれる海、獲る人（漁師）、食が三本柱となるが、漁業と資源をいかに残せるかが課題。
- ・ 地元の小さい船を営む漁師のほとんどかつてはカツオ船に乗っていて降りた人たちだが、今は中大型船に乗っている人が少ないために、地元船も減るという構図になってしまっている。中大型船の乗る人が増えれば、そこから漁師が増えていくことに繋がっていく。
- ・ 市場には地元船の漁が入ってこない。高齢化で漁に行かなくなり、若い人が替わってやっているわけでもない。市場に入ってくるのは、日帰りの遊びの船。燃料をたくさん使って釣りに行くような贅沢な遊びで釣っている船が偉いような状態。カツオがどんどん増えれば、もっと漁に出る船も増えるだろうが今は難しいようだ。
- ・ カツオに限らず漁業全般で漁師が減っている。高齢化、船の老朽化、不漁という状況になり、仲買人も減ってしまった。漁協は市場の集約化も検討しなければならなくなっている。餌場の問題、原油の高騰もあり、依然引き縄が釣れなくても沖の様子を見に行っていたが、今は誰かが釣らないと漁に行かなくなっている。
- ・ 19tクラスは今、成績がいい船が多く、現状維持で持続可能であれば、多くなくても今ぐらいであればそれでいいという船主も多く、バランスをとりながら考えていく必要がある。
- ・ 加工業者にラウンド（丸）を提供しており、焼津から仕入れているが、期待しているようなサイズ（2～3kg）のカツオが手に入らなくなっている。
- ・ 人材、経営、船体の大きな問題があり、人材は高齢化と若手不足が課題。経営面では金融面の拡充が必要であり、資金の支援があれば大変ありがたい。船が老朽化しており、新しい船ができるような支援を望みたい。
- ・ 船に若い人が入ってこないのが大変だが、大船を建造するのは国の補助だけでは非常にしんどい。かといって国の補助が増えるということも期待できず、どうしたらいいかの答えが出ない。
- ・ 建造は8～9億円かかり、平均3億円の水揚げという状況では難しい。新しく投資をしても回収できないような事業になっているなかで、大きな手が打たれていない状態である。20年、30年後には次の投資もできないかもしれない。
- ・ 漁業者が生き残るためには国のシステムを変えていくしかない。通産省、運輸省、水産庁が絡み既得権益の中でいろいろな縛りがある。19t船で5年に1度の定期検査があるが、壊れる前に予兆は出るためこれほどの検査は必要ない。縛りが依然として残っている間に船は減り続けている。マグロ船は200隻以上あったものが今は8隻ほどになり、カツオ船も同じ道を進んでいる。マグロ船が生き残っているのは、船が少なくなったことで単価があがったためと捉えている。

食育について

- ・ 現状も含めた資料として学校や青年団体、様々なところが使えるような統一された教育の材料になるような形を望む。
- ・ 香美市の教育委員会では、食育に取り組むことに確約してもらった。食育といっても、料理して食べるだけではなく、カツオ漁の現状を含めて教えていって頂きたい。
- ・ 例えば室戸では金目鯛、高知市ではカツオの食育と地方色もあるが、子供のときの体験は貴重。
- ・ 一本釣りの模型で釣りのような体験をした後に、大人と一緒に調理実習をして食べるという授業があったが、体験として子供たちの中に残っていくものがあるので、各地で行ってもらいたい。
- ・ 料理できない人が増えると伝えていけない部分もある。小学校低学年の遠足で漁に触れる機会を作るといった仕組みがあってもいいのではないだろうか。そうすると行政が引っ張っていかないと教育委員会も動かない。全部の小学校でなんらかの取り組みができればいい。
- ・ 昔はまるを一本買って家で調理していたが、今は刺身を買って帰る時代。マンションなどゴミ処理の悩みもあり、捌く

ということが減っている。ゴミ処理のコツや学ぶ機会となる教室などがあればもっと利用や理解が広がるように思う。

- ・ 東京で食べる魚がおいしくない、高知の魚がおいしいと言われる。これは小さい頃に食べた味が忘れられないからであり、子供たちにそのころの味を食べさせてあげたい。
- ・ 食育という言葉が新しい食べ方や料理など「食べる」ほうを強調させがちだが、本物の魚で、包丁を使い、血も流し、そういった過程を体験し最終的に食べておいしいというところまでを知ってもらうことが大切である。
- ・ 高知は他県と違い、刺身や魚を食べる機会が多いと聞く。そういった意味では魚への理解は得られやすい環境にある。

4. 情報発信分科会 西野様より提言と依頼

- ・ カツオ県民会議のロゴが決定し、20日に県庁でお披露目の会見を行う。ロゴが出来ることで情報発信がしやすくなる。
- ・ ホームページのありかたを検討、SNSのようなプッシュ型を準備している。フェイスブックが立ち上がった時には、必ず「ともだち登録」をしていただけるようお願いしたい。発信は元小学館編集長の黒笹さんに担当いただき、高知のマスコミにもっと取り上げていってもらい必要があると感じており、各位に取材希望の声がかかった場合には対応頂けるようお願いしたい。
- ・ 高知城歴史博物館、オーテピアといった新しい施設には新しい企画が必要となるため、現在思案中であるが、カツオ県民会議からも仕掛けを考えている。本分科会での食育のことや、漁師の考えや気持ちなどを話していただきたい。年間4、5回を計画しているが、来年の活動の中にもイベントへの参加を組み込んで頂きたい。窓口をどなたかに担当いただき、今までの知見を出力いただきたい。
- ・ 他地域との交流という課題と前回のシンポジウムで挙がっており、気仙沼や勝浦といった地域と交流し、カツオを軸として動きを作っていくような準備を行っている。そちらへの協力をお願いしたい。

中田副座長：情報発信といっしょにやっていく方向で各協力をお願いする。

5. その他

- ・ 漁の現状は厳しい。遠いところまで行き、港に水揚げし、高知まで戻ってエサを積んでいるが、高知のエサもないような状況になっており、エサが大きな問題になっている。

6. 次回以降の分科会と閉会挨拶

- ・ 方向としては今回の内容を深堀していけるように進めていく。
- ・ 今年の仮予定として一旦提示した日程付近での開催を検討する
- ・ 3/16周辺での出欠希望を問い合わせさせて頂くので返事をお願いする。
- ・ 漁業についての学習、深堀と共有できることがあればお願いしたい。
- ・ 仮 2018年3月16日(金) サニーマート本社会議室
(各位にヒアリングの後に決定とする)

会議後の懇親会

- ・ 魚頭 大熊にて、今後のあり方や進むべき方向など各位思い思いに意見を交わした。(14名)
- ・ 参議院議員の高野光二郎議員が参加。予算委員会での質問や手ごたえを聞かせて頂き、各位と意見交換を行った。

以上